

史跡探訪

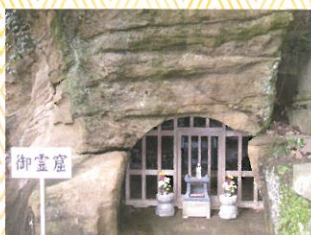
龍ノ口刑場跡

現在の神奈川県藤沢市片瀬にある「龍ノ口」という場所には、鎌倉時代から南北朝時代にかけて、幕府の刑場が設けられていました。当時政権を担っていた鎌倉幕府の玄関口である当地に刑場を設けることで、一般予防の効果を狙っていたものではないかともいわれています。処刑されたもののなかには、元からの使者である杜世忠（建治元年（1275）処刑）や、北条高時の遺児相模次郎時行（文和2年（1353）処刑）などが挙げられます。

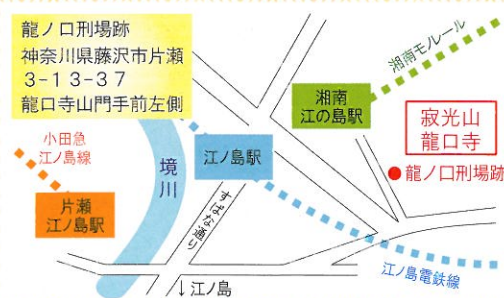
龍ノ口の処刑で最も有名で、処刑に関する多くの逸話が残されているのは、日蓮宗の開祖である日蓮です。日蓮は、諸宗を誹謗・中傷した罪によって、文永8年（1271）9月12日、龍ノ口刑場において斬首と決定されました。もっとも、当日蓮は実際に首を刎ねられたわけではなく、佐渡への流罪が執行されています。減刑された理由は安達泰盛の女で北条時宗の妻が貞時を懐妊中であったためとの説が有力ですが、日蓮が斬首されようとした時、江ノ島からの光で太刀が折れて処刑が中止されたとの伝説も残されています。この話の真偽を知るすべはもはやありませんが、その旧跡を記念して龍ノ口寺が創建されました。龍ノ口寺境内には、現在、日蓮が捕らえられた時に仮に設けられたと伝えられる土牢（御霊窟）が残されています。



龍ノ口刑場跡の碑



日蓮土牢



歴史の壺クイズ

鎌倉末期に編纂された訴訟制度の解説書『沙汰未練書』には、刑事訴訟の対象となる重大な犯罪の一つとして「大袋」という言葉が挙げられています。この言葉は、複数の犯罪を指し示す言葉として用いられていたようですが、以下に挙げた犯罪の中で、この言葉の意味に当てはまらないものはどれでしょうか。

1. 誘拐
2. 強盗
3. 死体遺棄

前回の答えは
3番!

横顔



若き国事犯検事
ほったまさただ
堀田正忠
(1859 ~ 1938)

明治15年(1882)11月、福島県令三島通庸の圧政に耐えかねた奥州会津の農民と警察との間で小競り合いが起こると、三島県令は福島県内の自由党幹部に内乱の濡れ衣を着せて一斉に検挙しました。世に言う福島事件です。翌年政府は福島事件の逮捕者を、政府転覆をもくろむ国事犯として高等法院の裁判に付しました。ポアソナード起草による旧刑法、治罪法(後の刑事訴訟法)が施行されてわずかに1年のことです。

初めて開かれる高等法院、初めて裁かれる国事犯事件に備え、被告側の自由党はきら星の如き弁護士を揃えました。対する検察側で、訴追の重任をほとんど一人で背負ったのが弱冠24歳の青年検事、堀田正忠でした。堀田は、明治6年(1873)12月にポアソナードが来日するとまもなく書生兼通訳としてボ邸に住み込み、親しく教養を受けましたが、学校で法律を学んだことはありません。「ポアソナード氏書生」が検事任官前の肩書きです。しかし治罪法草案の翻訳、ポアソナードと日本人委員との問答の通訳をこなし、立法者意思に通暁した学者として注釈書を出すまでになっていました。その学識を見込まれ、ポアソナードの推挙もあって、高等法院での検事の大役を任されたのです。堀田は高田事件、大阪事件でも検事として活躍しますが、まもなく職を辞し、ついに法律の世界からも身を引いてしまいます。新しい法の若き権威は、あまりに無理な訴追を続けることに耐えられなかったのでしょうか。実業界に転じた堀田はしかし、再び名声を得ることはありませんでした。

初めて開かれる高等法院、初めて裁かれる国事犯事件に備え、被告側の自由党はきら星の如き弁護士を揃えました。対する検察側で、訴追の重任をほとんど一人で背負ったのが弱冠24歳の青年検事、堀田正忠でした。堀田は、明治6年(1873)12月にポアソナードが来日するとまもなく書生兼通訳としてボ邸に住み込み、親しく教養を受けましたが、学校で法律を学んだことはありません。「ポアソナード氏書生」が検事任官前の肩書きです。しかし治罪法草案の翻訳、ポアソナードと日本人委員との問答の通訳をこなし、立法者意思に通暁した学者として注釈書を出すまでになっていました。その学識を見込まれ、ポアソナードの推挙もあって、高等法院での検事の大役を任されたのです。堀田は高田事件、大阪事件でも検事として活躍しますが、まもなく職を辞し、ついに法律の世界からも身を引いてしまいます。新しい法の若き権威は、あまりに無理な訴追を続けることに耐えられなかったのでしょうか。実業界に転じた堀田はしかし、再び名声を得ることはありませんでした。